

セミノールタンゼロの九州南部における特性について

桑波田 龍 沢・坂 元 三 好
(鹿児島県果樹試験場)

KUWAHATA, R. and SAKAMOTO, M.
On the characters of Seminole tangelo in the Southern Kyushu

昨今新しいカンキツ類への転換が各地で試みられている。そのなかでアメリカで育成されたタンゼロ類についても各県で導入試作されており、九州における適応性も次第に判明しつつある。当果試では昭和39年に穂木で導入したものについて調査をすすめてきたが、今回これらの成績をとりまとめて報告する。

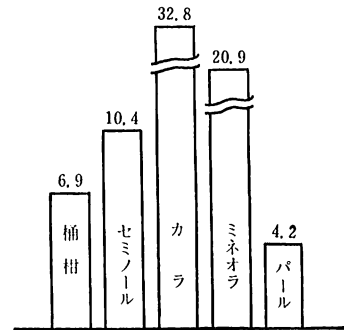
特性の概要

果実は 180g 程度で果皮色は濃紅色で、果肉は柔軟多汁である。果実の肥大は 2 月中旬ころ最高に達し、その後は横ばい若しくは下向傾向になる。果皮色も 3 月中旬以降退色するようになる。またクエン酸含量も 3 月上旬になって 2% をわり、 1.8% 台となる。したがって収穫適期は 2 月下旬乃至 3 月中旬となる。

5~6 月まで貯蔵すると、クエン酸含量は 1.4% 程度に下がり食味はかなり向上する。また取扱いをていねいにすると、果実の減量および腐敗をかなり抑えることが

第 3 表 貯蔵中の減量、腐敗 (%)

	3/30	4/5	5/5	5/20	6/5	6/20	7/5	7/15
減量	0	0.3	4.3	6.3	9.3	11.0	13.3	14.7
腐敗	0	0	2.7	4.0	6.0	8.0	10.0	16.0



品種別かいよう病発病率

第 1 表 時期別果実の品質

調査月日	果実重	果肉歩合	果汁歩合	可溶性固形物	糖 (Bx)	クエン酸	甘味比
1 月 10 日	186.1	79.5	75.8	11.94	10.5	2.08	5.7
2 月 5 日	164.0	89.6	79.5	12.63	10.4	2.00	6.3
3 月 5 日	170.0	76.0	71.6	12.55	11.4	1.84	6.8
3 月 20 日	198.8	77.1	—	12.38	10.7	1.81	6.8

第 2 表 貯蔵中の果実品質

調査月日	果実重	果肉歩合	果汁歩合	可溶性固形物	糖 (Bx)	クエン酸	甘味比
4 月 6 日	204.1	75.2	80.3	13.82	12.7	1.72	8.0
4 月 20 日	184.5	75.0	73.9	11.71	11.3	1.61	7.2
5 月 20 日	196.7	75.5	70.3	13.29	12.1	1.44	9.3
6 月 20 日	168.1	76.1	77.2	14.26	13.0	1.42	12.2

注) 果実は屋久島試験園産, 3 月 25 日採収後冷房貯蔵

できる。

果実の収穫適期が 3 月であるので耐寒性が問題となるが、現在までの栽培経過からみて、おおよそ零下 3℃ 以下で寒害を受けるようである。鹿児島県内での栽培適地は年平均気温 18℃、最低気温零下 3℃ 以上の地帯となろう。樹は開張性で早くから結実し、豊産性である。かいよう病に対する抵抗力はつよく、導入した品種の中ではパールタンゼロとともに非常にすぐれている。

む す び

この他にもカラマンダリンなど若干の品種を導入試作しているが、現在までのところ、セミノールがもっとも安定した成績を示している。このように果実は美しくかつ大きく栽培容易であるが、ただ含核数が多く (30 個程度)、クエン酸含量のたかいことが今後の課題となろう。